

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもトレーニングハウス・にじいろバナナⅡ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 9日		～ 2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 9日		～ 2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 5月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・知的好奇心を育むような教材や環境設定になっています。	・マッチングや構成の課題、手指の活動など身体だけでなく特性に併せた教材が揃っております。子どもが興味・関心がある玩具や絵本などすぐに手に取れるように工夫しており、自由遊びが発展していけるような環境設定になっています。	・職員が遊びを通して子ども同士の関わりを促し、遊びが発展するよう常に声かけや介入を工夫しています。
2	・運動に特化した遊具が充実しています。 ・広々としたスペースを確保し、室内でものびのびと遊べる環境になっています。	・サーキットやスイングなどの大型遊具を安全に楽しめるよう、遊具の配置やスペースを工夫し、子どもの動きを見守れる人員配置を行っています。これにより、安心して遊びに取り組める環境づくりに努めています。	・子どもの興味・発達・安全に配慮しながら、遊びのバリエーションや環境、職員の関わり方を工夫し、より質の高い事業所づくりを目指しています。
3	・経験豊富な専門職が配置されており、幼少期の発達に特化した質の高い療育を提供できる環境が整っています。また、子どもの発達段階に応じた支援や、保護者への丁寧なサポートも行っていきます。	・個々の発達課題に応じた個別療育と、生活・動作の場面で継続的に支援を行う体制が整っています。	・全職員（多機能事業所と保育所等訪問支援員）が共通理解を持ち、誰が関わっても質の高い支援ができる体制づくりを目指しています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域の子ども達との日常的（公園など）な交流はあるものの、イベントなどの地域交流の機会が十分に確保できていません。	・平日（月～金）の限られた時間帯での利用となっているため、参加できる地域イベントや施設に限られます。 ・地域イベントや交流の機会に関する情報収集が十分に行えず、参加のチャンスを逃してしまうことがあります。	・平日の利用時間では参加が難しい地域イベントに、土曜日の開放日を活用して参加する機会を増やしていきます。 ・地域の事業所・こども園・関係機関と積極的に情報交換を行い、イベント情報を収集・共有していきます。また、得た情報をもとに、子どもたちが地域と関われる活動を計画し、交流の幅を広げていきます。
2	・非常災害に備えて訓練や保護者会での説明は行っているものの、保護者全体への周知が十分に行き届いていない点が課題となっています。	・保護者会へ参加できない家庭や、事業所への送迎の機会が少ない保護者もいるため、直接的な情報共有が限定的となり、非常災害に関する周知が全保護者に十分に行き届いていないことが要因となっています。	・保護者会に参加できていない家庭や、事業所への送迎機会が少ない保護者にも情報が届くよう、誰でも閲覧できる形でHPやSNSを活用した周知に努めていきます。また、災害対策に関する情報を継続的に更新し、全保護者へ確実に伝わる仕組みづくりを進めていきます。
3			